
霜 月

本田雅子

あなたの誕生日は霜月の三十日

覚えやすくても忘れられない

寝たきりで話はず

目も見えなかったけれど

耳もとで名前を呼ぶと

唇がウン というように頷き

握った手をかすかに握り返した

十一月だった

この世のあなたとの時間にさよなら

この世のあなたとの思い出にさよなら

この世のあなたとの縁にさよなら

あなたの中の私にさよなら

いづれ訪れる

私がこの世から消える日に

私の中のあなたも消えるけれど

これからも霜月は

あなたを思い浮かべる月となる